

東京港

混雑「見える化」始動

14日
から
各CTの待機時間
など公表

東京都港湾局と東京港埠頭会社は14日から、東京港埠頭周辺の混雑状況をリアルタイムで「見える化」する新システムの運用を開始する。同システムでは、GPS（衛星利用測位システム）端末を活用し、各コンテナターミナル（CT）でゲートを通過するまでの待機時間と、ゲート入場から退場までの滞在時間の平均を公表。全国の港湾では初の取り組みで、同港での新たなソフト施策として、利用者の利便性向上につなげていく。

14日稼働する「東京港コンテナターミナル所要時間等見える化システム」(<https://mientka-tokyoport.jp>)は、専用のGPS端末を搭載する車両の位置情報データなどを活用。

計測エリアに進入してからターミナルのINゲートを通過するまでの所要時間（データ取得開始地点からターミナルまでの距離はCTごとに異なる）とINゲート入場からOUTゲート退場までの滞在時間を計測する。

ほかに、混雑状況に関する各ターミナルからのお知らせも併記する。ターミナル滞在時間は

午前8時から蓄積されたターミナル滞在期間を平均として計測。GPSデータが取得できていない場合は、東京港ポータルサイトのライブカメラ映像やお知らせ掲示板と併用して活用するよう呼び掛けている。

混雑状況の「見える化」を巡っては今年3月、都議会経済・港湾委員会、都港湾局の担当者が五輪前に実施すると明言。こ

れまでトラック事業者の協力を得て、約300台の車両に対してGPS端末の配布を完了し、システムの構築を進めてきた。

「見える化」と共にソフト面の新施策として、実施を検討しているコンテナ搬出入の事前予約制では、今年度中に導入に向けた実証実験を行う方針で、現在関係者と調整を行っているという。